

令和7年度第3回小櫃・上総地区公民館運営審議会会議録

- 1 会議名称 令和7年度第3回小櫃・上総地区公民館運営審議会
- 2 開催日時 令和7年12月9日(火)
14時30分から17時00分
- 3 開催場所 君津市小櫃公民館 研修室
- 4 出席委員 【小櫃地区選出】 丸山副委員長、木下委員、本忠委員、三橋委員
出席委員 【上総地区選出】 石井委員長、大野委員、緒形委員、田中委員
事務局 【小櫃公民館】 藤平館長、會澤副主査、島津主事
事務局 【上総公民館】 森本館長、潤米松丘分館長、相川亀山分館長
早田主査、今井公民館主事、池田主事
【生涯学習文化課】 布施副課長、小林副主幹
- 5 欠席者 なし
- 6 傍聴人 なし
- 7 会議概要 下記のとおり

1 開会（進行 今井公民館主事）

2 公民館長挨拶（森本館長）

3 議題

【今井公民館主事】

それではこれから審議に入るわけですが、君津市公民館規則第12条第3項の規定により議長は委員長が行うこととなっておりますので、これ以降の進行を石井委員長と交代させていただきます。

石井委員長よろしくお願いいたします。

【石井委員長】

それでは議事に入らせていただきます。

では議題（1）令和7年度事業中間報告（9月～11月）について事務局の説明をお願いします。

なお、質疑は両館の説明後に一括して行いますので、ご承知おきください。

【藤平館長】

*資料1－1 令和7年度小櫃公民館事業中間報告（9月～11月）（P1～3）を説明。

【森本館長】

*資料1－2 令和7年度上総公民館事業中間報告（9月～11月）（P4～6）を説明。

【石井委員長】

ありがとうございます。ただいま事務局の説明が終わりましたので、質疑を行います。活発な議論にできればと思いますので、ぜひご協力をお願いします。

【三橋委員】

小櫃の「あそんべ食堂」の報告の中で、前日にならないと何が食材として来るか分からないというお話がありましたが、そのあたり詳しく説明をいただくと「あそんべ食堂」の全体像がつかめるとと思いますので、よろしくお願いいたします。

【島津主事】

「あそんべ食堂」で使用している食材に関しては、地域の方から寄付をいただいています。主にホームページでの呼びかけと味楽園さんにチラシを持って行って、いらなくなった食材があればご提供いただくよう周知しています。

「あそんべ食堂」は毎月第3火曜日が開催日なので、あまり早くに集めすぎても食材が傷んでしまいますし、できるだけ新鮮な状態の食材を使いたいという思いもあり、前日の月曜日に食材を搬入し何を作るのか決めています。

【三橋委員】

ありがとうございます。

もし間違っていたら訂正していただきたいのですが、この事業は公民館にいろいろ関わっていた小櫃地域に住んでいる若い女性の方たちが「子どもたちを集めて子ども食堂をやってみたい」というところをきっかけとして、公民館の施設を利用して始められたかと思います。そして子ども食堂を実際にやってみたら、今島津さんが説明してくださったように地域の方々がいろいろ反応して食材を提供してくれたり、昔から公民館活動にご理解いただいている方が参加されたりして活動を支える仕組みが整い始めていたり、将来を担う中学生の子たちがボランティアとして自主的に参加したりして、公民館を核として昔からあった地域のエネルギーが一つの形になっているのを感じます。

この「あそんべ食堂」に関しては私も公民館に関わる人間として様子を見させてもらったり、話を聞いたりしていて、公民館を核として地域の活性化につながる良い事業が始まったと思っているので、全体像を皆さんに知っていただきたいと思い質問させていただきました。

【島津主事】

「あそんべ食堂」の実行委員長の吉田さやかさんも地域の皆さんが活躍できる場所、つながれる場所を作りたいという思いで活動されているので、食事の提供を通じて地域のいろいろな人がつながれる場として、今後も活動を続けていければと思います。

【石井委員長】

広がり場ということですね。これからどうやっていくのか楽しみです。これがどんどん広がってくれたらと思います。

そのほか意見などはございますか。

【石井委員長】

この間私も亀山のふるさとまつりに携わらせていただいて、終わった後いろいろ話を聞いたところ、今年は折木沢の神楽の発表を最初に行ったと思いますが、発表に間に合わなかったという方が多くいらっしやったようで残念がっている意見もありました。来年度以降、発表の順番について考えていただけるとよいかなと思います。

そのほかご意見はございますか。

【石井委員長】

では、意見も特段ないようですので、議題（１）令和７年度事業中間報告（９月～１１月）について議事を終わります。

【石井委員長】

続きまして、議題（２）「２０歳のつどい」の進捗状況報告について事務局の説明をお願いします。

【會澤副主査】

*資料２ 上総小櫃地区２０歳のつどいの取り組みについて（Ｐ７）を説明。

【石井委員長】

ただいま事務局の説明が終わりましたので、これから質疑をお受けいたします。
質疑のある方はお願いいたします。

【丸山副委員長】

小櫃は今まで記念文集の作成はやっていなかったと思います。この文集の作成は私たち世代から見ると、とても負担になるような作業があると思うのですが、そのあたりの作業量についてはいかがでしょうか。

【會澤副主査】

以前、久留里・亀山・松丘地区で実施していた際は、往復はがきを送付して書いてもらってそれを集約して貼るという作業をしていたのですが、今回からオンラインでメッセージを寄せてもらう形にしました。

以前の良さである手書き感は失われてしまうデメリットはあるのですが、作業量としてはデータを貼り付けるだけなので、そんなに大変ではないかなと思います。

表紙の部分については、実行委員でいろいろ話し合った結果、記念文集のタイトルをつけたりだとか、実行委員の中で書が書ける人をお願いしたり、その方の知り合いで絵の描ける方もいたりして、表紙のデザインについてもみんなでレイアウトの案を出しながら全体の形を作っているところです。作業的にはこれから12月の実行委員会の時までにはメッセージを貰えることになっていますので、そこで作成できればと考えています。その後は印刷して製本するだけなので、そこまで手間はかからないと考えていますが、実際にやったことがないので、そのあたり今井から補足はありますか。

【今井公民館主事】

今、會澤から説明のあったとおりですが、以前は久留里・亀山・松丘地区につきましては、返信はがきをスキャンして手書きで来賓の分と20歳の方の分をそれぞれ用紙に作成していましたが、今回からオンラインで集めていくということで、人数的には増えていますが、作業の負担としては軽減されていると思っております。

【丸山副委員長】

メッセージを取りまとめたりする作業は20歳の方たちが行うのですか。

【會澤副主査】

実行委員会の中で一緒に作業できればと考えています。

何もしないで出来てしまったでは達成感がなくなってしまうので、文集作成についても20歳の方にできるだけ関わってもらって、みんなで形を整えていければと考えております。

【丸山副委員長】

分かりました。

【石井委員長】

公民館がバックアップしながら作業を一緒に進めていくということですね。

私のほうから一つよろしいでしょうか。

20歳のつどいには当然保護者の方も来られると思うのですが、そちらの人数制限などはあるのでしょうか。

【會澤副主査】

人数制限などは設けておりません。

【石井委員長】

分かりました。

ほかに何かご意見などありますか。

【田中委員】

20歳の方の人数について教えてください。

【會澤副主査】

対象人数の捉え方が少し難しいのですが、小櫃・上総地区に今住民票がある方を対象とすると60名となります。そのほか市外に住んでいて申込みがあった方が今のところ9名です。

【今井公民館主事】

内訳についてご説明いたしますと、小櫃地区が33名、久留里・亀山・松丘を含めた上総地区は27名となっています。

【石井委員長】

私からも一つ伺いますが、新成人の企画「ひとことメッセージ」を全員から貰うこととなっていますが、時間的にはどうなのでしょう。

【會澤副主査】

例年どおりですと、大体14時にスタートして全部込みでも15時頃には終わる予定でしたが、おそらく今回の場合だと時間が押すことが見込まれるので、案内通知には15分遅くして15時15分終了予定ということで記載しております。

それより前倒しで終われば良いのですが、少し遅くなるかなと見立てております。

【石井委員長】

ありがとうございます。この辺が結構盛り上がるころなのかなと思いますが。

【會澤副主査】

やはり今何をしているのか、今どういう思いで頑張っているのかを聞きたいし、地域の方に聞いてもらいたいというところがあるのかなと思いますので、それを大事にしてあげたいと考えています。

【石井委員長】

分かりました。そのほか意見はありますか。

【石井委員長】

では意見もないようですので、議題（２）「２０歳のつどい」の進捗状況報告について議事を終わります。

【石井委員長】

続きまして、議題（３）「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動」について事務局から説明をお願いします。

【森本館長】

資料３－１ 地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動（Ｐ８）及び資料３－２審議テーマに係る事業と、その後の取り組みについて【上総地区】（Ｐ９）について説明。

【會澤副主査】

資料 小櫃地区 地域づくり協議会設立準備会の取り組み状況について説明。
併せて地域組織アドバイザーおきなまさひと氏講義動画の一部を視聴。

【石井委員長】

ただいま事務局の説明が終わりましたので、これから質疑をお受けいたします。
活発な議論をお願いできればと思いますので、ぜひよろしくお願いいたします。

【三橋委員】

小櫃地区と上総地区それぞれにお伺いします。

まず、小櫃の地域づくり協議会のことで一点気になることは職員の負担です。今、君津市のほうで、地域の人で話し合って自分たちで地域のことを考えてくださいっていう事業がいっぱい小櫃に来ていて、それを資料にある活動の柱となるテーマに当てはめていくと、１番の農業のところだと、これは県が主で直接市が関わるものではないのですが、土地改良区の合併が行われるということでこれは小櫃の地域の中では非常に大きな変化をもたらすところがあります。

また農地の関係ですと、市のほうでやっておりますけど、農業の地域計画などについては、農業をやっている人たちが話し合った結果をもとに、農地を集約して効率の良い農業をやろうという取り組みがあります。次の２番の教育のまちについていうと私と、ここにいる田中委員も関わっているのですが、小櫃小学校だけではなくて上総小学校、上総小櫃中学校の３校で取り組んでいる学校のコミュニティスクールは、これも地域の人たちで話し合って学校運営を進めていこうというものになります。

また、小櫃の中にはもう一つ子どもの育成に関わるところで、小櫃の元気なこどもを育てる会という組織があって、小櫃の社会福祉協議会、青少年相談員、自治会などの多くの組織が関わって運営しています。４番のイベントのことでいえば、小櫃のふるさとまつりがあって自治会の皆さんが主体となって実行委員会を組織しているな

ど、地域のことで目的を持ってみんなでいろいろ話し合いながら取り組んでいる組織・団体がたくさん活動しています。

今後、地域づくり協議会を進めていく中で、そういう組織で活動している人たちも参加してきて、活動の柱となるテーマについて良い方向に議論が展開されて進んでいくと思うのですが、一つ思うのはつなぎ役のところは今までは各組織が自分たちで調整してやっていたところに公民館や市の職員が寄り添うってよく説明しているのですが、市や公民館の職員が調整するとなると負担が大きいのではないかとということが心配です。

事業説明の動画の中でもありましたが、地域をつなげるという部分が特に重要な要素で、そこに移るまで公民館の職員の方が相当関わってくださって、地域をつなげたり、会議に至るまでのいろいろなことをコーディネートしてくださっているかと思います

今の実態を見ると、寄り添っているのは公民館の職員しかいないのではないかと感じますが、小櫃の場合は公民館がすごく要になってくださっていて、地域づくり協議会を進めていくことについては良いのだけれども、普通の窓口対応をやりながらいろいろな企画を立てたりするほかに地域づくり協議会の設立準備会のことで打ち合わせをやったりしていて、公民館の職員の負担がすごく心配です。

この間の社会教育委員、公民館運営審議会委員合同協議会では、休館日で窓口業務をしない日ができればそういった業務を進められるという説明もありましたが、本当に大丈夫なのか気になるのが一点。

もう一点は、こういう協議会方式でやっていくと、今まで自分たちでいろいろやっていた団体の人たちから地域づくり協議会をどう見られるのかということ、自分たちのやっていたことが、協議会とどういう関係を持つのかということです。

これは、一つの例ですがこの間、小櫃の元気なこどもを育てる会と私達コミュニティスクールのほうでこれを一つ地域の繋がりとして双方協力して取り組む動きがある中で、私たちが関わった際にそこで言われたことは、「自分たちが今までやってきた活動をコミュニティスクールで全部やってくれるのか」とか、そういうような、ちょっと誤解を招くようなことがあったので、そういうことがこの地域づくり協議会でまた起きてしまうといけないので慎重に進めていく必要があると思います。

これは、十分分かっていることだと思いますが、そういう心配がちょっと今、私の頭の中ではあるのでこの辺は慎重にやらなくてはいけないっていうのがありますね。

ただ、公民館の職員が地域づくり協議会を進めていくうえで非常に重要な役割を担ってくれていると同時にその負担が大丈夫かなと思うのと、もう一つは今まである既存の団体との関係構築がこれからちょっと難しいんだろうなと思います。

続いて上総地区の「上総の“山”と“歩く”を楽しむ教室」についてですが、皆さんは愛宕神社に行かれたことはありますか。あそこは、自然林で植生が残っているところがある一方で、山を削っていて神社の裏側が崖になってしまっていて、非常に地域の現状を見るのに参考になるというか、自分たちが行って参加者の人たちがいろいろと地域のことについて考えるのに良い場所だなと思って、良いところをスポットに当てたなと思いました。

一点細かいことを聞くと、山の上の神社のところまで登るのは大変だと思うのですが、登っていくのでしょうか。

【今井公民館主事】

登ります。8月に関係する2団体と一緒に下見に行ったのですが、きついルートです。ただし少し遠回りになるのですが、やや緩やかな神社の整備用に車が通れるルートがありますので、行きのルートは少しきついルートで登って帰りは緩いルートで下りてくるようなことを両団体とは相談したところであります。

【三橋委員】

ありがとうございます。

非常に良い場所とテーマを設定したのではないかと思います。

【石井委員長】

三橋委員の意見に対して何かありますか。

【藤平館長】

資料のほうでは五つの柱ということで案になっていますが、どうやって進めるのかというところは手探りでやっているところです。

ただ、言えることは、例えば「あそんべ食堂」を立ち上げた吉田さんは、公民館にこれをやってという形ではなく、これを自分たちがやるから公民館手伝ってという寄り添い方をしてくださって、そういうところを目指せればと考えています。

公民館が、実現するのではなくて、皆さんが実現したいことを公民館がサポートする、そういう寄り添い方ができればよいと考えています。

先ほど三橋さんが、既存の団体が小櫃にはたくさんあってという話をしていたいたのですけれども、それぞれの団体にご挨拶というか、今、地域づくり協議会を立ち上げる準備会というものをやっていることについて周知をしていこうということは考えています。

ただ、どういう風に進んでいくかというところがまだ見えていない状態ではあります。なるべく公民館が主体ではなくて、地域の皆さんが主体というところで寄り添いながらできればと考えています。

【三橋委員】

若い人達は、自分たちがやらなければいけない感覚を持って公民館と関係づくりをしてくれていますが、その上の年代の人たちが運営している団体は、感覚として事務的な調整とかは公民館にやってもらうっていうような意識がこの地域は非常に強いので、そのところを注意して対応していかないと、職員がパンクしてしまいます。

大切なことは、時間はかかるけれどもそういう意識を若い人たちに持ってもらおうことかなと思います。

【丸山副委員長】

協議会をいつスタートするかを目安はあるのでしょうか。これは準備委員会ですよ
ね。

【藤平館長】

キックオフをやったのが、今年の3月19日なのですが、大体1年かもう少し経ったあたりで形にできればと考えております。

【丸山副委員長】

ありがとうございます。

【三橋委員】

実際は誰が今立ち上げていいタイミングなのか判断できる人がいればいいけど、ないとまた公民館のほうにすごい負担がかかってしまいますよね。

【丸山副委員長】

地域づくり協議会で取り扱う内容が広範なので、立ち上げるのにもすごくエネルギーがいりますよね。

【藤平館長】

資料の1番から5番まであるものが小櫃の課題で、これを地域の住民の力で何とかやっていく、これが柱ということになるのですが、それぞれの柱を実現していくためにどんなことが出来るかっていうのをちょっとずつ考えていくことになっています。

【丸山副委員長】

五つの柱の中からある程度形になったものがいくつか出来た段階で立ち上げを行わないと、いつまでも準備しているみたいな形で結果がついてこないとやっている人もモチベーションも下がってしまうのではないかと感じています。

【藤平館長】

この柱を実現するために、どういう風に活動していくのかというところにうまくつなげて話を持って行って、各柱それぞれに参加したい方、協力したい方はどうかというような呼びかけをして行って、少しずつ進めていく状況ではあります。

【丸山副委員長】

地域づくり協議会立ち上げ後の呼びかけについても公民館が行うのでしょうか。

【藤平館長】

公民館はサポートという形で考えています。

【三橋委員】

もう一つ問題なのは、協議会を作るときに一般の人にも声掛けをして、みんなで参加して協議会を作って一緒に協議していくと思うのですが、農業なんてまさにそうなのですが、一般の人たちの感覚から出る意見と、実際に農業に携わる方たちの現実にはギャップがあって、そのすり合わせを公民館で調整するとなると公民館の負担がどんどん増えて大変だろうなと思う。

【石井委員長】

あと一般の人が入りづらいというのはあると思います。

地域づくり協議会という引いてしまう人も結構いるのかな、もっと気軽に入れるものではないのかと思っている人もいたのかと感じます。

【田中委員】

地域を良くしていきたい、子どもたちのためにという思いは、既存の団体も、地域づくり協議会も一緒だと思うのですが、この地域づくり協議会設立準備会に集まった45名に、既存の団体のメンバーも入っているのでしょうか。

【三橋委員】

既存の団体のメンバーが、地域づくり協議会設立準備会のメンバーになっている場合もあります。

二重構造になってしまっていて、そのつなぎ合わせをするのが公民館の職員の皆さんがいろいろと調整しながらやってくれている。ただ、その仕事は本当に公民館の仕事なのかなと感じてしまう。

【石井委員長】

ご意見等いろいろありましたので、その辺は公民館で再度打ち合わせをしてもらって、作り上げていただきたいと思います。

【田中委員】

上総地区のことで質問なのですが、今回上総の“山”と“歩く”を楽しむ教室～久留里編～というテーマで実施するということでしたが、上総地区は今後ずっと同じテーマでやっていくのでしょうか。上総地区は久留里のほか、亀山もあって松丘もあるのですが、今回は久留里編として実施して、今後は別の地区でも実施するということなのでしょうか。

【森本館長】

上総の“山”と“歩く”を楽しむ教室というのは、もともと上総公民館で実施している事業の一つなのですが、場所については毎年変えていて久留里・亀山・松丘地区を3年で一巡するようにしています。

今年は久留里地区で実施するため、久留里編として実施します。

【田中委員】

毎年変えているのですね。分かりました。

【石井委員長】

私もこの事業には直近2年分参加させていただいて、亀山でやった時は荏原城、去年は松丘の大戸城と千本城に行かせていただきました。

ただ、参加者の方を見ると久留里の方も多く来ていましたね。

【田中委員】

自治会文書配布についても、上総地区全域の自治会に出していて久留里の人が亀山や松丘に行ったり、久留里で実施するときは逆に亀山・松丘の人が参加するっていう事例もあるということですかね。

【森本館長】

そのほかにもホームページでも周知をしており、市外の人も参加しています。

【石井委員長】

地元にこんな場所があったのかっていう発見はありますね。

【田中委員】

住んでいても意外と知らなかったりもしますからね。上総地区には、良いところがいっぱいあると思いますので。

【今井公民館主事】

今回は久留里ということで、たまたま関わる2団体とも久留里を中心に活動されている団体の取り組みと協働してやるということになっていますけども、この事業はあくまで協働の一環として位置付けているもので、事業をやることだけが協働の目的ではなくて、その前後の準備の段階での協働や終わった後にその成果をどういう風に両団体に活かしていただけるかとか、今後、公民館がその両団体の活動にどういう風に寄り添って支援していけるのかといったところも含めて、審議テーマに係る事業の取り組みということで捉えていただければと思います。

【石井委員長】

そのほか何かございますか。

それでは、ほかにはないので、議題（３）「地域住民が主体の『地域づくり』を推進する公民館活動」についての議事を終わります。

【石井委員長】

続きまして議題（４）「公民館の開館時間、休館日について」生涯学習文化課の説明を求めます。

【小林副主幹】

＊資料 公民館の開館日（閉館時間）の変更、休館日の設定について（案）を説明。

【石井委員長】

ありがとうございました。

質疑応答のほか、開館時間、休館日の見直しについて委員の一人ひとりに意見を求める形で進めていきたいのですがよろしいでしょうか。

では、大野委員から意見をお願いします。

【大野委員】

私個人的には、今、説明があったように、閉館時間を21時までにするのと夜間利用がない日について夜間閉館にすることについては、市の言うように短くする。週一回休館にすることについては、十分検討したほうが良いと思います。今後この会議だけではなくていろいろな会議がありますので、そのあたりと調整して決めていくのが良いのではないかと考えています。

【田中委員】

1番の閉館時間を21時にすることについては、賛成です。閉館時間が決まっていれば皆さんそのつもりで終わりにすると思いますので。

2番の休館日について、休館日を設けることについては賛成なのですが、月曜日にするか火曜日にするかは迷うところがあります。

3番の夜間利用がない日についての閉館についても経費削減のためには良いのではないかなと思います。

【緒形委員】

開館日や閉館時間が今までと変わらないほうが、市民にとって良いのではないかなとも思ったのですが、働き方改革なども言われておりますので、職員のことや市の財政のことを考えると、休館又は閉館時間を21時までにしても良いのかなと思います。

休館日については、月曜日休館が良いとか火曜日休館が良いとかは特段ないのですが、私個人としては公民館を火曜日と水曜日の昼間に利用させていただいているので月曜日休館のほうがありがたいです。

また、夜間利用がない時の閉館については良いと思います。

【木下委員】

1番について21時の閉館で問題ないのかなと思います。3番の利用がない日の夜間閉館についても、このように実施すれば徐々に根付いていくのかなと思います。

2番の休館日の設定については慎重に決めたほうが良いかなと思っています。地域の産業とか地元の会議とかそういうような状況が絡んでいて、各公民館で利用状況が違うというような状況が生まれているのかなとも思うので、休館日を設けるということについてご理解はいただけるのかなとは思いますが、何曜日を休館とするかについては、慎重に検討したほうが良いのかなと思います。

【本忠委員】

1番の閉館時間の短縮については、21時というのは賛成です。休館日の曜日については、私は読み聞かせボランティアをやっている関係上、図書館の利用を結構していて、現在リクエストした本が火曜日に届くので、火曜日休館になると月曜日は中央図書館も休館なので、水曜日に届くことになるかと思っています。そうすると、こちらに届くのが遅くなりボランティアの活動に支障が出てしまうので、私個人としては月曜日の休館を希望したいです。

3番の夜間の閉館について、利用がない日は閉館にしても良いと思います。

【三橋委員】

1 番の閉館時間と 2 番の休館日を置きたいという話、3 番の利用がない日の夜間閉館について今ご説明いただいた中で、いろいろな利用状況を基にした根拠など皆さんに説明できる内容が整えられているので、これで良いと思います。

以前 11 月 13 日の合同協議会の時に公民館の置かれている状況について丁寧に説明していただいて、それを踏まえて感じたことなのですが、2 番の休館日の曜日の関係で今委員の皆さんから利用者の立場に立っていろいろご意見を頂いたのですが、休館した際に職員が何をするのか、何ができるかということも重要ではないかと感じています。

職員の皆さんが休館日でなければ取り組めないお仕事などあると思うので、月曜日休館の根拠も火曜日休館の根拠も今ご説明してくださっているので、そのあたりをうまく使って決めてしまっているのではないかと思います。

【丸山副委員長】

一つ質問なのですが、祝日の扱いはどうなるのでしょうか。

【小林副主幹】

祝日は休館になります。

【丸山副委員長】

月曜日は祝日と重なることが多いと思うのですが、その振替といったものはあるのでしょうか。

【小林副主幹】

今のところ、振替はしないという方向で考えています。

【丸山副委員長】

祝日と月曜日が重なるとそれは休館日という形で考えるということですね。

そうすると、緒形委員や本忠委員も言っていたように自分の使う日が休館日になったときの影響が気になると思います。私個人としては月曜日と火曜日休館どちらでも大丈夫なのですが、小櫃の「あそんべ食堂」が火曜日に実施しているので影響が気になります。私としては、1 日休館日があっても良いのではないかと考えていますが、みんなの都合を聞いていたら休館日を設定できないので、そのあたりをうまく調整できればと思います。

もし仮に私のサークルの活動日が休館日になってしまったとしても、準備期間もありますので、その間に自分たちで調整して対応するしかないのかなと思っています。

一点確認ですが、公民館ごとに休館日を変えるやり方ではなくて月曜日休館であれば、市内全部の公民館が月曜日休館になるということですね。

【小林副主幹】

はい。

【丸山副委員長】

それでよいと思います。

閉館時間についてですが、21時閉館で良いと思います。夜間に会議や集まりがあるところも時間内に収まるようにしていけば問題ないのかなと思います。

夜間の利用がない日の閉館については、夜にふらっと来て打ち合わせをやりたいということはまずないと思いますし、誰も利用者がいないのに電気がついていたり、担当の方が一人いらっしゃるというのも問題かと思います。

休館した際に電話がかかってきたときは留守番電話で対応するのかとか、そのあたりについては検討が必要かと思いますが、施設利用の申請もオンラインで申請できるようになっていますので、そのあたりを利用者の方ができるようになれば、そこまで混乱は生じないかと思います。

ただ本当に君津市にお金がないというのはつくづく実感しました。

【石井委員長】

私の意見ですが、21時閉館ということで良いと思います。もっと早めて20時閉館でもいいのではないかという気持ちでいたのですが、先ほどから言われているように夜間に利用者がいない時には閉館するというお話もありましたので、これについては良いと思います。

休館日については、亀山と松丘のコミセンでは、すでにもう月曜日が休みになっていて松丘と亀山の方はそれに慣れているので、月曜日休館で良いと思いました。

委員からの意見は以上のとおりですが、何かありますか。

【布施副課長】

生涯学習文化課の布施です。今日はありがとうございます。冒頭で申し上げるべきだったのですが、課長の野村もぜひ来たいということであったのですが、先に予定が入っていたということがございまして、大変申し訳ありませんが本日欠席となります。お詫び申し上げます。

皆様からご意見いただきまして、この審議会の前段に合同協議会がございました。

ご欠席された方もいらっしゃるかと思うのですがけれども、まずお詫びなのですが協議会の場で委員の皆さんと一つひとつ大切なテーマを考えていくにあたって、例えば夜間を閉めるといった場合、当日夜間使っていない部屋がどれくらいあるのかそういった基礎資料がないというご指摘を頂きました。今日遅ればせながらにはなるのですが、資料についてお持ちしました。今回のこの休館日、開館時間の検討に当たっては、やはり地域のいろいろな活動に少なからず影響があるテーマになります。

何らかの形で地域の方に影響を与えてしまう中でもこういう形で意見を伺いながら、少しでもより良い方法を検討していきたいということで改めて今日、資料お持ちしたということであります。

今、お伺いした意見を概ね取りまとめさせていただきますと、閉館21時はやむを得ないのではないかという意見、また施設の予約が入っていなかった場合の夜間の閉館についてもやむを得ないのではないかという意見がございました。その場合分かりやすく周知をしていただきたいというのがこの前の合同協議会とかでもご意見を頂いておりますので、その点の対応については引き続き検討していく必要があると感じております。

また、休館日につきましては週一回置くことについてはやむを得ないだろうが、ただし、月曜というご意見と、火曜というご意見、また、一人ひとりの意見を聞いているとそれぞれのご都合があるので、逆に決めかねてしまうということもありましたので、そちらについては事務局のほうで休館日を設けるということの意義を十分に踏まえて、この日にすると良いのではないかといったときに、例えばその日に職員がきちんと環境整備ができるとか、研修ができるとか、そういった点を踏まえて決めたらどうかというご意見、あるいは月曜火曜日ちょうど数が拮抗していましたので、これについてはその地域の差というものがあるので、その点も含めてもう一回慎重に考えていただきたいといったご意見。概ねこのような形で今日ご意見をお預かりしたかと思えます。

こちらのほうで持ち帰りまして、また皆様のところ、またもちろん地域の皆さんにもご報告をしなければいけないと思いますので、そのような形で進めていきたいと考えております。

またこの場でこうしますという話ではないですけれども、皆様の気持ち、皆様のご意見ということでお預かりさせていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

【石井委員長】

公民館の審議会の委員の皆さんも大体同じような意見を持っているという認識があったと思います。

それでは布施さん、小林さんありがとうございました。

それでは議題（４）「公民館の開館時間、休館日について」の審議を終わらせていただきます。以上をもちまして、議事がすべて終了いたしましたので、議長の任を解かせていただきます。ご協力ありがとうございました。